

発言 09

イギリスに住んで22年になります。階級意識の高い国ですが、「人間は誰しもまったく同じではない」と考え、人々は自分より恵まれない人、つらい思いをしている人に慈しみの心を持って接します。お金持ちが、貧しい人を無償で助けるチャリティー活動が盛んで、困っている人がいれば、階級を超えて他人にサツと手を差し伸べることが出来ます。

「自己責任」か

麻生総理は、かなり経済的に裕福ですよ。国民がこれほど困っている

のだから、ちゃんと痛みをくみとって手を差し伸

国民が政治に意見もつと

べてほしい。国民が働いて経済大国になったのに、今、働く場所がなく、苦しんでいる人への対策が不十分。日本も国民が政治にもっと意見をいつてもよいと思います。

お金がなくて生活が苦しいと日本の場合には「自己責任」になります。イギリスで生活保護を受けている友人がいますが、誰からも「お前のせいだ」とは言われません。

まず面接で生活がいかに苦しいかを語り、行政を説得します。書類も多く手続きは大変ですが、最終的には申請が認められ、普通に「人間らしい生活」が保障されます。

「コンサート」を企画しています。渡英した当初、下宿先で一緒に暮らした自閉症児のジェイミー君の影響で始めたもの。日本では、障害をもつ子が生まれると「どちらの家族か」と責めあうこともあるとききます。これも「自己責任」の考え方。

イギリスは、いまだ世界のトップ・ドッグ(勝者)という誇りがあるのか、イラクやアフガンの戦争に先陣を切って参戦しました。日本よりも戦争が身近で、10代の青年も亡くなっています。日本は被爆国として、世界に「核兵器をもたないでほしい」と言える立場にあります。それが世界の平和につながる。そういう主張を堂々とするときだと思っています。

被爆国として



おがわ・のりこ ピアニスト。1987年リーズ国際コンクール3位入賞。ロンドンと東京を拠点として活動し、国内外のオーケストラとも共演。北欧最大のレーベルBISと専属契約を結び、22枚のCDをリリース。著書に『夢はピアノとともに』(時事通信社)。ミューザ川崎シンフォニーホール・アドヴァイザー。

それでもだめならチャリティーというセーフティ・ネットがあります。介護も日本とは違い、親や配偶者など、どんなに近い関係であっても、誰かを介護をすれば「介護職」として国からお金が出ます。公的にやらねばならないことを家族が代わりに担っているという考え方なのでしょう。日本で自閉症児の家族のための「ジェイミーの

行動に私は動じない」という意思表示をする。

聞き手 中村尚代
写真 林 行博